日本都市計画学会関西支部　学生対象ワークショップ 2023

過疎地域での新たな豊かな暮らし
養父市旧グンゼ養父工場跡地地域活性化ワークショップ

■趣旨

兵庫県の北部にある養父市では、地方の大きな課題である過疎化や少子高齢化による人口減少に歯止めがかかっておらず、若年層の移住・定住を促す取組がなされています。

一方で、養蚕と製糸が盛んであったことから、市内の各地に養蚕農家の集落景観、製糸場などが地域の資源、産業遺産として現存しています。また、養父市内にはグンゼの八鹿工場と養父工場がありましたが、いずれも廃止され、八鹿工場跡地は「やぶ市民広場ＹＢファブ」として生まれ変わりました。

今回は、養父市内のまちを歩き、地域の歴史・文化に触れるとともに、旧グンゼ養父工場跡地を活用し、過疎地域における豊かな生活、多様な暮らし方、働き方の実現による地域の活性化方策を考える学生対象ワークショップを開催しました。

■開催概要

主　催　（公社）日本都市計画学会関西支部
後　援　　養父市

＜１日目＞
日　時　令和 5 年 7 月 23 日（日）9 時～17 時
場　所　養父市役所養父地域局（兵庫県養父市広谷 250-1）、
　　旧グンゼ養父工場跡地及びその周辺（兵庫県養父市養父市場）
参加者　学生 20 名

＜２日目＞
日　時　令和 5 年 8 月 27 日（日）14 時～17 時
場　所　兵庫県民会館　1202 号室
　　（兵庫県神戸市中央区下山手通 4 丁目 16-3）
参加者　学生 21 名

■プログラム

＜１日目＞
9:00　阪急梅田バスターミナル集合、出発
13:30　市長挨拶および市の状況説明
14:00　現地視察

グンゼ工場跡地（1ha）を高島養父市場地区長の案内で視察しました。工場では製糸業が営まれており、その原料としての養蚕も地区周辺では盛んでした。製糸のプロセスから生まれる蚕のサナギが有効に利用されており、鯉の養殖に活用されていまし

た。養殖されていた鯉は品質が高く、鯉ブランドが確立されていたとのことでした。地区内では、円山川から水が引かれており、通りに設置された水路が家々の池につながり、鯉を育てる空間が作り出されました。視察ではその名残を確認することができました。工場が盛況な時代は工員さんが多く、養父市場地区も賑わいがあったとのことでした。また、但馬牛の牛市場もあり、市場が開かれた際には屋台なども出店し、祭りのような賑わいがあったとのことです。視察では、牛具の店舗や牛を扱う人向けの宿などがあったことが確認できました。宿は部屋数が多く、現在ではコワーキングスペースとして再利用されているとのことでした。

16:00　市役所にて学生からの感想の共有

まちを歩いて気づいた点や感じたことを班別に発表し、共有しました。

17:00　現地発、　阪急梅田バスターミナル着

＜２日目＞

１　各班の発表

・発表の順番は、くじ引きで決定した（４班→１班→５班→３班→２班）。

・発表 10 分、質疑応答５分で行った。

２　審査体制

以下の４名による審査委員会により審査を行った。

笹井　浩　　（日本都市計画学会関西支部企画委員会委員長／総合調査設計株式会社代表取締役社長）

熊谷　樹一郎（日本都市計画学会関西支部企画委員会副委員長／摂南大学理工学部都市環境工学科教授）

広瀬　栄　　（養父市長）

高島　正博　（養父市 養父市場地区 区長）

３　講評

審査委員から、各班に対し講評を行いました。講評の概要は以下のとおりです。

１班

中長期的な視点を有した提案であったところが、非常に優れていた。地域に主体的に関わっていく若者を中長期的に育成していくためのアイデアや跡地利用に当たって時代を分けたゾーニング、暫定利用などの財政的な配慮が提案されていた。また、循環と IT というコンセプトの中で、新しい産業創出の例としてアクアポニックスを提案するなど、持続性を担保するアイデアがあった。さらには、長い期間安全に暮らしていくための防災に関する視点があり、良かった。

２班

ゲーム×農業で提案が展開され、非常に尖っているとともに、時代にも合致しており、面白い提案であった。跡地の活用については、シェアオフィスや宿泊施設、コワーキングスペース、広場など、企業の呼び込みと地域との交流を促すような提案であり、尖りつつもバランスのある提案となっていた。

３班

観光客をおもてなしする、リピートのお客さんやファンづくりをし、移住・定住につなげていくという提案であった。地元住民が地域に愛着を持つという部分は、地元区長として反省する部分もあり、頑張っていかないと行けない部分だと感じた。養父を知って

もらう、ファンをつくるために地元で何ができるか参考になる発表であった。

４班

マルシェや農園、グランピングなどの短期的な体験を空き家活用につなげていく、跡地の枠にとらわれない地域への広がりを持った提案だった。土地利用に当たっては、こども園との交流を意識した配置になっており良かった。教育という観点から兵庫県立但馬農業高校に着目し、農業高校の魅力を活かしながら、より来たくなる農業高校にしていくという点が面白かった。

５班

食育をベースにした提案であった。市も教育をまちづくりの根幹においており、市全体で全ての人が何らかのかたちで農に携われるまちにしていきたいと考えている。提案の中身はそれらに活用できるものであった。特にゼロエネルギービレッジは、時代の潮流にあった良いアイデアであった。また、水をエネルギー化していく提案も非常に良かった。

４　審査結果

厳正なる審査の結果、以下のとおりとなりました。各賞を受賞された方には、後日賞状をお送りしました。

最優秀賞：１班

優 秀 賞：２班、５班

５　全体講評

（広瀬委員）

甲乙付けがたい提案だった。市の施策提案に向けて活用したいと思う光るアイデアがたくさんあった。最優秀賞は、絶えず循環し、人が入れ替わって行かなければならないという考え方が底辺に流れていたことが高く評価された。ゲームの提案は、実現性について疑問が残りつつも、尖った提案で良かった。

（高島委員）

デジタル時代の林間学校や県立高校との連携など、すぐにでも取り入れたいアイデアがたくさんあった。商売で絶対に売れる３つの条件として、「ここにしかない、これだけしかない、今しかない」という考え方がある。それでいうと、ゲームの提案もありだと思う。養父に来ないとできないという発想が必要。

6　記念撮影

最後に参加者全員で記念撮影を行い、全プログラムを終了しました。

参加していただいた皆さま、本当にありがとうございました。また、本ワークショップの開催にあたり、多大な御協力を賜りました養父市の皆さまに重ねて御礼申し上げます。